

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 元年 9月4日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1670103496		
法人名	(有) 緑の丘		
事業所名	グループホーム みどりの丘		
所在地	富山市開発2 4 6 番地		
自己評価作成日	令和元年8月5日	評価結果市町村受理日	令和元年9月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>思いやりとほほえみと優しさをモットーに利用者が本人様らしく生活できるような支援を心がけています。</p>

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	北証パトナ株式会社		
所在地	富山市荒町2番21号		
訪問調査日	令和元年8月21日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>利用者一人ひとりのこれまでの人生を敬い、職員は思いやりの心と笑顔を大切に支援に努めている。利用者のADLが低下していくなか、馴染みのかかりつけ医および事業所協力医である心療内科医のサポートがしっかりと出来ており、利用者、家族とも安心して暮らしている。地域の催事に積極的に参加したり、ボランティアを招き演奏会を楽しむなど、利用者の今までの交流が継続できるよう支援に取り組んでいる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

グループホーム みどりの丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関やフロアーの目に見えるところに理念を掲げている。入職時には必ず話をしている。	法人理念を基に、事業所の目標として「思いやりと微笑みと優しさ」を掲げ、玄関やホールに掲示するほか、カンファレンスや申し送りの時など、機会をとらえて、職員全員で理念が共有できるよう取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の保育園からの訪問や幼稚園への訪問を行って交流を継続している。地域のボランティアの受け入れや依頼を行っている。	地域との関わりを大切に考え、保育園へ訪問して園児たちの踊りを楽しんだり、事業所にボランティアを招き演奏会を開いたり、町内の催事に参加するなど、利用者が地域の人達との出会いが保てるよう支援に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方が来られた時や地域の行事に参加した際に利用者やホームのことについて話すようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの様子や会議の時点での悩みを議題として話している。地域包括支援センターの方や介護保険課の方にも参加していただき解決に向けアドバイスをいただいている。地域の方の参加を増やしたい。	運営推進会議はグループの「こちどり」と合同で開催され、事業所からはケアの現状をしっかりと報告している。委員からは運営に関するアドバイスを貰ったり、地域の高齢者の状況を聞き取るなど、活発に意見交換が行われている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険制度において不明点があれば随時介護保険課に連絡し相談している。介護相談員の受け入れもしている。	市の介護保険課とは、常に連絡を取り合い、介護保険の加算のことや家族からの苦情について相談するなど、協力関係を築くよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>マニュアルを作成し職員全員にて理解を深めるようにしている。センサーの使用や出入口の施錠はご利用者の安全確保のためやむを得ずすることがあるが、抑制にあたることを職員全員理解している。また、ご家族にも事情を説明している。</p>	<p>身体拘束をしないケアについては、職員全員に徹底されており、利用者に落ち着きのない行動があれば、優しく話しかけるなど言葉遣いに気を付けている。一方帰宅願望の利用者に対しては、家族ともよく相談しながら玄関やフェンスの施錠が必要でないか職員間で検討している。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>入浴やトイレ誘導時・更衣時に全身観察を行いあざや傷がないか確認している。チェック表がある。</p>			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>後見制度を利用しているご利用者がいるため、制度については今後も理解を深めていきたい。また、過去には利用の提案をさせていただき資料を渡したこともある。</p>			
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>ご家族様が理解と納得をしていただけるよう話し合いの機会を十分に持つように努めている。疑問には随時対応している。</p>			
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情マニュアルを作成し、苦情届を玄関に設置している。ご利用者には小さな不満から対処できるような心がけ、ご家族には面会に来られた際に必ず声をかけるようにしている。</p>	<p>家族が面会に訪れた時や電話で利用者の様子を伝えた折に、事業に対する意見や要望を聞くようにしている。また、今回苦情マニュアルを作成し、事案が発生すれば素早く対応ができるよう体制を整えている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談や申し送りを利用して職員の要望や提案を聞くようにしている。	管理者は日常現場に出ており、職員の意見や要望を聞くようにしている。一方職員から相談があれば随時個別面談を行うなど、日頃からコミュニケーションを図り、職員の不安を取り除く対応に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は個別に職員の話聞き、家庭状況や心身の状態を把握するように努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内は掲示し、希望があった研修には参加できるようにしているが、人員不足により参加したい研修に参加できていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	研修への参加などを通じて交流を深め、サービスの向上になるよう努めたいと思っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人・ご家族様と話をする時間を持ち、話を聞くことで不安が軽減され安心できるよう努めている。また、入居前にご家族様からセンター方式など情報をもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学・面談・相談には柔軟に対応し、ご家族様が初期の段階から気軽に何でも相談できるように努め信頼関係を築くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要とした支援をご家族様と一緒に見極め、必要であれば他のサービスや事業所情報を伝えている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者ができることを見極め声かけをして洗濯物たたみなど行っている。役割や楽しみを持って生活していただけるよう心掛けている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた際にはホームでの様子を必ず伝えるようにし、ご家族様の思いを聞くようにしている。なかなか面会に来ることができないご家族様には電話などで対応している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様はもちろん親戚や兄弟の方の訪問がある。電話や手紙の希望があれば随時対応しているが、ご家族が希望されないケースもあるため柔軟に対応している。	家族と一緒に外出に出掛けたり、家族の協力を得て墓参りをされる利用者もあるなど、利用者の記憶にある場所や人について、馴染みの関係が途切れないよう、支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合うご利用者同士一緒にレクリエーションを楽しんでいる。これからもご利用者同士が話をできる機会を設けるようにしていきたい。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても退居後の様子をご家族からうかがったり、直接訪問させていただいている。その際ご家族様から相談があれば対応している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアプラン作成時には担当職員がご利用者の思いや意見を必ず聞き反映している。意思表示が困難な場合にはご家族様や他の職員からの意見を聞き、本人の思いに近づくことができるよう努めている。	利用者には、穏やかな声かけでコミュニケーションを図り、思いや意向の把握に取り組んでいる。独り言やつぶやきにも耳を傾け、受け止めた情報は職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際ご家族にセンター方式の記入にご協力いただき、生活歴やなじみの暮らしを職員間で共有するようにしている。会話の中から聞き取りをしたり、必要であればご家族様に入居前の様子をうかがっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録を作成し、1日の状態や動きなど支援したことを記録している。記入した記録を見て申し送りを行うことにより把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その人らしい生活が送れるようにご利用者・ご家族様の希望を取り入れた介護計画にしている。課題があった場合には随時申し送りなどで検討・実施できるようにしている。	利用者にいつまでも元気で過ごしてほしい、筋力を付けてほしい、体操をしてほしいなどの家族からの要望も多い。本人の現状を把握しながら、無理のない介護計画に取り組み、職員間でアセスメントをしながら、本人らしい生活を主体に置き、見直しを図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に日々の変化や会話・行動・ケアプランの評価を記入している。変化が見られた場合にはモニタリングやケアプランの見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者や家族から希望があった場合には柔軟に対応できるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域や学校行事、ボランティア、介護相談員の方に話をしてもらっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月、心療内科と内科のかかりつけ医の往診がある。入居前と同じかかりつけ医を希望される方は引き続き受診できるよう支援している。希望時には、歯科往診も対応している。	いつでも適切な医療が受けられるよう、家族と協力しながら取り組んでいる。心療内科医の往診時には、利用者全員が診てもらい、症状の変化や服薬のことなど、随時連絡を取って指示をもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員に看護師はいない。そのため管理者は主治医との連携を密にとり指示を仰ぎ適切な対応をとるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者の状態についてはかかりつけ医と連絡を密にし、早急な対応ができるようにしている。入院先にサマリーなどの情報提供を行い、入院中には病院スタッフやご家族と連絡をとり情報交換に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所の方針としてターミナルについては対応していないが、可能な限り今までの生活を継続していくことができるよう主治医・ご家族様と連携をとり対応するようにしている。	状態変化に応じて、家族とかかりつけ医との話し合いの場を設け、事業所としてできる取り組みを説明し方針を明確にしている。今後は医療面の充実を図るため、訪問看護事業所との医療連携を検討している。	重度化が進んでも、ここで過ごしたいとの利用者、家族の思いを受け止め、職員も安心してケアに取り組むことができるよう、訪問看護事業所と連携し、医療面の充実を図る取り組みが期待される。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	主治医と連携をとり急変時の対応について学ぶようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回通報・避難訓練を行っている。消防職員が立ち会った際には地震・水害等災害について話を聞き職員の不安に対処するようにしている。備蓄も行っている。	避難訓練の際には、運営推進会議のメンバー立ち会いのもと実施している。自然災害等に対する避難マニュアルは作成していないが、消防職員に情報をもらいながら、起こりうる事態などを想定し、職員間で話し合っている。	自然災害やライフラインが停止したことも想定したマニュアル作成を進めると共に、日頃から非常時に備え、備蓄品の見直しや連絡網の確認などを行なうことが望まれる。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者を尊重し、個々に合わせた声掛けを心掛けている。トイレの声掛けなど耳元でするようにしたりなどプライバシーを損ねないようにしている。	利用者に対しては、強制的な言葉を使わない、プライドややる気を損なうような言葉かけをしないよう職員間で注意している。利用者間のトラブルにも、相互の話に耳を傾け、孤立させないよう落ち着く対応を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物やバイキングなど種類や温かさなど選んでもらうなど自己決定ができるように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションなどを実施しているが、拒否があれば無理に勧めていない。ご利用者のペースや希望に合わせた支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	年3～4回床屋さんに来てもらっている。希望時には職員の送迎で美容院にてカット・毛染め・パーマができる。また、なじみの美容院へ行かれる方もいる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配・下膳、お菓子作りなどを行い食への楽しみが増えるようにしている。茶碗拭きを職員と一緒にやっている。	天然素材のダシを使い、季節の食材を生かした調理が提供されており、利用者は美味しく味わっている。時にはタコ焼きプレートを使い、利用者がプチカステラを作るなど、おやつ作りを楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1300ml/日を目標にしている。状態に合わせて食べられるものの提供や、主治医と連携を取り、高エネルギー栄養剤など取り入れる場合もある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けを行っている。ご利用者にあった口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ご利用者の個々の状態にあった排泄間隔などを把握し、個々にあった時間にトイレでの排泄ができるように誘導を行っている。	トイレでの排泄を勧め、車いすの利用者には、安全のため職員2人介助で取り組んでいる。時間によってはパットを使用するときもあるが、個々の排泄パターンを把握しながら対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々にあった排便間隔を把握し、往診時主治医へ報告している。牛乳などの乳製品を提供するなど工夫している。主治医と連絡を取りながら適宜整腸剤や下剤・坐薬を使用することがある。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日と時間は決まっているがその時間内でご利用者の希望する順番に入っただけのようにしている。拒否された場合は無理強せず清拭・更衣を支援している。	入浴日は決めているが、本人の希望や体調を見て柔軟に対応している。発汗や失禁などの際には、シャワー浴や清拭など身体の清潔保持に努め、気持ちよく過ごしてもらうよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量を増やしよい睡眠がとれるように努めている。昼食後は休息の時間を設けているが、しない方には個々にあった過ごし方をしてもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけの薬剤師があり、薬を処方してもらう上で使用上の注意や説明があるため記録に残したり、申し送りで共有している。内服後に変化があった場合には主治医へ報告し指示を仰いでいる。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者やご家族様からの情報やセンター方式にて生活歴の把握を心掛けている。気分転換を行うことができるようにしている。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候やその日の状況に合わせて散歩に出たり日光浴ができるようにしている。買い物に職員と一緒に行くようにしている。	お天気が良ければ、近所の散歩や買い物にお連れして、気分転換を図っている。また、近くのグループホーム「こちどり」へも催し物があれば出かけている。地域の保育園行事や町内会のイベントにも積極的に参加し、住民との交流を楽しんでいる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者は基本的にお金は所持していない。希望があれば手元に持っていることは可能であるが、ご家族様にはなくなる可能性があることを必ず話している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者の方にご家族様からメッセージを書いてもらうよう依頼することがある。希望があれば電話・手紙いつでも対応している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾りを「ご利用者と一緒に作ったり、花を飾ったりしている。居室には温度計を設置し、定時に温・湿度の測定を行い快適に過ごしていただくよう空調管理している。	吹き抜けのある明るいいりびんぐは、快適に過ごせる室温調整がなされ、利用者が作った花火の貼り絵などで季節が感じられる。キッチンからの音と美味しい匂いが漂うなか、お気に入りの場所でテレビを見たり体操をしたりと、利用者は思い思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個室のため1人になれる場所がある。ソファや和室もあり好きな場所で過ごしていただいている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際自宅で使っておられた物を持ってきてほしいと依頼している。自室には自身の作品やご家族様との写真などが飾ってある。	たくさんの家族写真が飾ってあったり、窓辺に観葉植物を置き、水やりをして育てたりするなど、家族の関りが窺えるような個性ある居室作りが支援されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に名前やトイレなど主要なところには分かりやすいように表示している。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームみどりの丘
作成日 令和 1年 9月15日

【目標達成計画】

優先順	項目番	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	10	ご家族の方へ利用者の暮らしぶりについての報告が少なくなっている。外部評価の調査員の方からも指摘あり。	ホームでのご様子をご家族の方に定期的に報告できるようになる。	ホーム便りの定期的な発行や、郵便物を発送する際に様子を記載する。	12ヶ月
2	35	地震・自然等の災害における対策について職員間の意識付けができていない。	自然災害やライフラインが停止した場合を想定した対応を職員間で意識付けできる。	自然災害などに対する避難マニュアルの作成をすすめる。職員間で話し合いを実施する。備蓄品準備、見直しを行う。	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

グループホーム みどりの丘